

対談

女性が活躍し、いきいきと輝ける未来に

前尼崎市長 白井 文さん × 平尾市長

米原市が誕生して10年を迎えた平成27年。これまでの市政運営を振り返るとともに、前尼崎市長 白井 文さんと平尾市長が現状課題に立ち向かい、誰もがいきいきと輝ける未来を目指したまちづくりについて語り合いました。



市長 今年、米原市が誕生して10年を迎える節目の年です。今回は、市の魅力の再発見、市の将来像などについて白井さんと意見を交わしたいと思います。

白井市長 よろしくお願ひします。

市長 白井さん、米原市にどんな印象や感想をお持ちですか。

白井市長 交通の利便性の高さは、他のまちにはない魅力だと思います。また、環境に熱心という印象が強くあり、私が市長時代に「ホテルを守るために条例まで制定するとは！」と驚いていました。

市長 10年目を迎えるこの時期、市の将来展望をしっかりと示すことが重要ですが、交付税が減額段階に入り、大変厳しい財政運営が迫られています。また、人口減少が大きな課題で、解決に向けて少子化対策、移住・定住政策を進めなければと、非常に緊張感を持っています。

白井 とても重要な時期ですね。

白井 文

全日空で客室乗務員として11年間勤務した後、人材育成コンサルタントに転身。その後、尼崎市議会議員（2期）、尼崎市長（2期）を務めた。

現在は、グンゼ株式会社の社外取締役、(一財)大阪府男女協働参画推進財団の業務執行理事を務める中、講演や、新聞コラム執筆、テレビ番組のコメンテーターとして活躍中。

男女共同参画の現状と課題

市長 人口減少の解決には「女性の活躍」が大きな意味を持つていると思いますが、白井さんはどう思われますか。

白井 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という意識がいろいろなところの影響を及ぼしています。この意識を変える事が重要ですね。

市長 特に男性にこの意識が強いですね。約6割はいまだにこの意識を持っています。男女共同参画社会基本法が制定されてから15年もたつのに、この意識がほとんど変わっていないことに、私は驚いています。

白井 (固定的な性別役割分担意識：下表) この15年、法律もあり条例もつくり計画もあり…ただなかなか男女共同参画が進まないことに問題意識を強く持っています。



固定的な性別役割分担意識
＜夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである＞



出典 男女共同参画推進会議 (内閣府)
「男女共同参画の実現を目指して 平成26年度版データ」

白井 そうですね。日本は、家父長制度がまだ強く残っているのか、意識が変わらないんですよね。国においても社会の中でリーダー的な役割を果たす女性の割合を、2020年までに30パーセントにするという目標を掲げていますが、これも大変厳しいですね。数値目標だけを追いかけても仕方がないという人もいますが、意識改革だけでなく、まず行動改革をして目標を達成することがとても重要だと思います。

少子化問題

市長 女性の社会進出や、社会的な地位が確立されたから晩婚になった、それが少子化の原因だと言う人がいますが、実はそうではない面がたくさんあります。

白井 そうですね。近くの例で言えば、合計特殊出生率が全国的にも高く、共働きでも子どもの数が増えているのが福井県なんです。三世代同居の田舎での子育てが少子化問題を解決し、多くの子どもに恵まれることが幸せな生き方で、それが負担ではないという地域もあります。

市長 「専業主婦で、子どもだけに關わる人が子育てだ」と思っている人は、考えを改めてほしいと思います。また、子育て中のお母さんに「2人目どうするの?」と聞くと、多くの人は「夫が1人目の育児でどれだけ私をサポートしてくれたかで、2人目を産むか考えます」とおっしゃる。さらに「3人目はお金。教育や育児にお金がかかるので、2人の収入を考えたときに、ブレイキをかけてしまうことがあるんです」と聞き、私は愕然としました。子どもに恵まれない状況で、ブレイキをかけなければいけない社

男女共同参画社会の実現に向けて

市長 会が豊かなんだろうかと。産むか産まないかは、個人の選択だと思えますが、産みたい人が産める環境を整えるために、基礎自治体ができることはたくさんあると思います。

白井 私は、子育ての経済的負担をどう軽減するかが大きなポイントだと思っています。また、昔と比べて、共働きの世帯数は逆転しているんですね。かつて母親は家にいたが、今は多くの家庭が共働き。職場での働き方、家庭での男女の役割、大いに転換していく時期だと思っています。子どもに幸せが提供できない親であつていいのか、それをだれも支援しないのは大きな問題ですね。

市長 とても難しい課題なので、やはり国が大きく政策転換していかなければいけないと思います。例えば、日本の家族政策に關わる財源の規模は、諸外国に比べてものすごく少なく、GDPに占める割合が1%程度しかありません。自治体から声を上げ、強く国に方向転換を求めてもらいたいです。ヨーロッパなどと比べると、格差がありすぎて唖然とするような実態ですね。地方としても訴えますが、国が動かない



白井

以上、自治体が政策を進めていかないと、問題は解決しないと思います。

もう待ったなしの状況ですから、国の動きに先んじて、自治体で先手を打つというのは有りだと思います。女性が生きやすい社会は、男性も生きやすい社会だと実感している人も多いと思うんです。そこをモデル的な一つの実例として見せていくことも大切だと思いますし、職場で育休をとるパパが増えて「当たり前なんだな」という見せ方を、市役所から始め、地域社会に大きな影響を与えていくことも一つの方法なのかもしれないですね。

市長

子育て期にある男性の家事・育児に関わる時間は、日本は驚くほど少ないんですよね。男性が一週間に家事労働に携わる平均時間は1時間弱。そして、子育ては30分そこそこ。諸外国と比べても大きな差があり、これが日本の男女の役割分担の問題の現実ですね。

市長

男性の育児時間が子どもの出生にどう関わりが有るかですが、これは非常に面白いデータですね。夫が家事育児に関わっていない人たちは子どもを産まない。やっぱりお父さんが休日に関わりが有ることで、大きな影響を及ぼしているんです。男女の役割分担と同時に、働き方の面でも男女共同参画の解決に向けた努力をする必要があると思います。（男性の休日の家事・育児時間別にみた第2子以降の出生の状況：右表）

男性の休日の家事・育児時間別にみたこの8年間の第2子以降の出生の状況



出典 第9回21世紀成年者縦断調査の概況（厚生労働省）資料

女性が生きやすい社会は、男性にとっても、生きやすい社会なんです。

ワーク・ライフバランスの実現

子育て支援



白井

長時間労働が大きな問題になっていますよね。時間ではなく、成果で測るといって仕事の仕方に変わっていかねばいけませんし、仕事も在宅でできるとか選択肢を広げること重要だと思います。

市長

「家庭での時間をとり、その時間を子育てや地域社会の貢献に充てる」こういう考え方が、日本人の働き方を変える大きなポイントになると思います。日本人の働き方を変える大きなポイントになると思います。

白井

本筋にそう思います。人事配置が適正にできているのに、仕事が終わらないということ、業務改善や、効率化もしなければならぬと思います。社会全体で取り組むべきことも多いのかもしれないですね。

市長

働き方が変わらなければ子育ての中身も変わらなければ、ただ変わるものとして、子育ての経済的な負担が大きいことが最大の課題だと私は思います。

市長

米原市は、中学生までの医療費や第2子以降の保育料の無料化を行っています。子育ての経済的な負担がなくなり、もう1人産みたいという思いに繋がるのであれば、少子化対策の大きな効果が生まれると思います。すぐに結果は出ませんが、今できることを、今やらなかったら、少子化問題の効果は現れない。働き方や家庭のあり方を変えなければ、今の若い人が、結婚や出産をしようと思わない。社会を歩かせるためにも、私は子育て支援はとて大事な施策だと思っています。

白井

市長時代は、少子化対策や子育て支援の政策が自治体によって差があるのではなく、一定の水準を保ち、どこに住んでも子どもに平等な政策が享受できることが重要で、国がきっちりすべきだと思っています。

市長

深刻な数字を言わなければいけないのですが、米原市は、ほ



白井 米原市の現状、まさに待ったなし。その危機感を市長から直接お聞きし、国の動きを待つ

ほ毎年300人ほどの人口が減っているんです。無策で10年たてば3000人減るといふことです。効果が出るかわからないということではなく、今始めないと人口減少は止められない。せめて少子化対策で1人でも子どもを産む条件を整えることや、米原市に移住・定住して、そこに住まいを家庭をとって、そこに住まいを政策を、今こそ始めるべきで、私は危機感をもってやりたいと思います。

市長 ありがとうございます。もつと、そういう政策をアピールしていただきたいし、そこに魅力を感じる人が大勢、米原に定着するまちとして、モデルになってもらいたいと思います。

白井 はい。そうですね。課題解決もすごく重要なんですけど、まちの宝探しみたいなのも、とても大切だと思つています。住んでいる人がまちの宝を知らず「粗」ばかり見つけてしまう事が問題かなと思つていたら、なんと米原市は「ステキ調査」というのをやつておられるんですね。この取り組みこそ、宝探しにつながると思うんです。今まで声を上げることができなかった若者や子育て中のお母さん、女性が参画でき、それがまた、自分たちのまちを見つめ、次の米原市をつくることにもつながっていくんだつたら、とても素晴らしいと思つました。

米原市の未来展望

市長 若い人が、どんな米原を、どんな未来を願っているのか、こ

市民の願いや希望を一つ一つ丁寧に取り上げ、時代に合った政策を、切れめなく無駄なくやりたい

れをしつかり受け止めて政策を展開するべきだと思つていきます。豊かさというのは、たくさん集めることではなくて、いいものを大事にして、しっかりと残す、こういう新しい評価の仕方や価値を、もつと政策の真ん中に置いて、質を問いただす時代に来たんじゃないのかと思つています。

白井 米原市には姉川や天野川の上流である中山間地域に水源の里があり、ここに森や水、そして地域資源があります。これを大事に使うことで、次の世代の子や孫たちが「いいまち」だと感じ、ここで生まれ育つて、老いて命を終えることに納得できるような、地域で完結していく人生を支えるのが行政だと思つています。そういう点で、若者の希望や願いを実現していくのが「希望都市まいばら」の仕事で、市民の願いや希望を一つ一つ丁寧に取り上げ、時代に合った政策を、切れめなく無駄なくやりたいと思つています。

熱く語つていただき、私も嬉しくなりました。今こそ、目の前にある幸せや環境に感謝し、子

市長 どもや未来につなげていく事が大切だと改めて感じました。こちらこそ、いい議論をさせていただきます。女性が生き生きと活躍できるということは、男性も生きやすくなり「男だから」と鎧をつけさせられている時代ではなくなるんだということをお話しいただきました。

白井 男女共同参画や女性政策は、自治体の中でも片隅に置かれがちですが、男女共同参画はすべての分野に関係があり、その中核にある問題なんです。そこをとらえて、頑張つていこうという市長のメッセージを聞かせていただき、とても嬉しく思いました。私も心からエールを送り、お手伝いできることがあります。喜んで駆けつけます。

鼻・震 ありがとうございます。